

第7回 首都直下地震時等の 災害ボランティア活動 2022 連携ワークショップ 報告書

首都直下地震時等の災害ボランティア活動の取組みについては、2019 年度より名称を「連携訓練」から「連携ワークショップ」に変え、取組みを進めています。今年度で7回目の実施となりました。昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止対策によりオンラインにて実施しました。

また、都域でのプログラムだけでなく、江東区 VC と連携した「地域プログラム」の実施、また、ADRA Japan と連携した「団体プログラム」を実施するなど、各地域で連携ワークショップの拡がりを持つような工夫も行いました。

日時 団体プログラム 1月20日(木) 13:00~16:00 ※江東ボランティア・センターと協働
地域プログラム 1月29日(日) 13:30~16:30 ※ADRA Japan と協働
都域プログラム 2月27日(日) 13:00~17:30
スピンオフ・プログラム 3月2日(水) 18:30~20:30

※感染防止対策のため、すべてオンライン (Zoom) での実施となりました。

参加者 合計：167名

●団体プログラム 18人

※セブンスデー・アドベンチスト教団 教団役員、教会員、ADRA Japan 職員

●地域プログラム 33人

※江東ボランティア連絡会、江東ボラコー会 (区民ボランティアコーディネーター)、災害ボランティア講座受講生、江東国際交流協会、日本補助犬情報センター、朗読の会マザー・グース、傾聴の会・江東、東京東地区郵便局長会、東京 YMCA 江東センター/東陽町センター、江東区社会福祉協議会

●都域プログラム 63人

※生活協同組合、企業、NPO・NGO、社会福祉協議会、自治会、自主防災会・地域防災協議会、多文化共生団体、防災士会、被災者支援グループ、宗教団体、避難所運営協議会、地域包括支援センター、病院、専門家団体、民生委員、アレルギー当事者団体、学生ボランティア団体、大学 等

●スピンオフ・プログラム 53人

※参加者所属団体は上記「都域プログラム」と同様

主催 東京都災害ボランティアセンターアクションプラン推進会議



★1/20 団体プログラム、1/29 地域プログラムの報告書は別途作成しています！

都域プログラム

事前送付資料

- 全参加者
 - ・ 連携ワークショップの目的等について視聴（動画・20分）
 - ・ 被害想定等 地図ワークに役立つリンク集（A4・2枚）
- 2/27 都域プログラム参加者
 - ・ クロスロードとは（A4・1枚）
 - ・ クロスロードお題一覧（A4・6枚）

2/27 は限られた時間の中でワークのため事前資料の送付が重要でした。事前にクロスロードのお題を読んできて戴くことで当日のスケジュール短縮を行いました。

2月27日（ワークショップ当日）

※開会前の約40分間、ワークショップの目的ならびに東京都災害VCアクションプラン推進会議の説明動画を放映しました。

総合司会
真如苑 SeRV 白石



開会挨拶 連合東京 真島明美
東京都災害ボランティアセンター
アクションプラン推進会議 幹事団体



オリエンテーション

- 本ワークショップの目的ならびに主催である「東京都災害ボランティアセンターアクションプラン推進会議」について、事務局である東京ボランティア・市民活動センター 加納より説明しました。

地図を使った図上演習ワーク

- ADRA Japan 取組み事例紹介
1月20日にADRA Japanで実施したプログラムの紹介を行いました。
<事例報告>ADRA Japan 小出一博（連携WSワーキング・メンバー）



- 地図ワーク
 - ・ 地図ワークは、本来であれば、参加者が一緒に地図を囲んで様々な情報を書き込むものですが、オンライン開催のため、地図ワークの方法を主催者から伝える形にとどまりました。
 - ・ 地図ワークでは、①東京都域、②複数区市町村域（北多摩西部ブロック）、③区市町村域（国立市）の3つの地図を用いました。



東京都域地図



複数区市町村域（北多摩西部ブロック）の地図



区市町村域（国立市）地図

- ・ 最後に、司会と発表者2人による地図ワークポイントの解説を行いました。地図ワークを行う上では、（1）地域のことを良く知っている人と一緒にワークを行う、（2）災害時のまちを良く知っている人と一緒にワークを行う、（3）具体的な支援活動（支援プログラム）のイメージを持ってプロットする、（4）関係団体や縁のある団体の拠点をプロットする、（5）どこから支援が来るのかをイメージする、といった具体的なポイントがあげられました。





クロスロード／プラスワン

●江東ボランティア・センター取組み事例紹介

・1月29日に江東ボランティア・センターで実施したプログラムの紹介を行いました。

＜事例報告＞江東ボランティア・センター 成海隆博
(連携WSワーキング・メンバー)



●ブレイクアウトルームに分かれてクロスロード／プラスワン体験

・9つのグループに分かれてクロスロード／プラスワンを体験しました。各グループでは、ワーキングのメンバーが進行役及び進行補佐(記録等)役を担いました。

・参加者はお題5つを読み、それぞれに対してA案かB案かを選択。その中で、より議論をして深めたいお題をピックアップして、意見交換、そして、C案作りをおこないました。

※クロスロードは、二者択一の中でどちらか一つを選び、その理由を話し合うワークです(クロスロードは、チームクロスロードの登録商標です)。

※プラスワンは、二者択一の状況からもう一つ選択肢を増やすことが出来ないか、参加者とともに考えるワークショップです。



グループでのワークショップの様子

お題①(台風上陸直前) 一人暮らし高齢者への避難の促し				お題②(災害ボランティアセンターでの物資配布の継続判断)				お題③(被災した子どもたちへの)			
グループ	A案	B案	人数	グループ	A案	B案	人数	グループ	A案	B案	人数
グループ1	1	2	3	グループ1	1	2	3	グループ1	1	2	3
グループ2	2	3	4	グループ2	2	3	4	グループ2	2	3	4
グループ3	3	4	5	グループ3	3	4	5	グループ3	3	4	5
グループ4	4	5	6	グループ4	4	5	6	グループ4	4	5	6
グループ5	5	6	7	グループ5	5	6	7	グループ5	5	6	7
グループ6	6	7	8	グループ6	6	7	8	グループ6	6	7	8
グループ7	7	8	9	グループ7	7	8	9	グループ7	7	8	9
グループ8	8	9	10	グループ8	8	9	10	グループ8	8	9	10
グループ9	9	10	11	グループ9	9	10	11	グループ9	9	10	11
合計	44	53	97	合計	44	53	97	合計	44	53	97

全グループのクロスロード結果

グループ	クロスロード/プラスワン結果	C案
1	お題1: 避難の促し	避難が容易な場所を確保し、避難が困難な場合は、二次避難場所を確保し避難の促進を図る。
2	お題2: 物資配布の継続判断	継続して物資配布を行う。
3	お題3: 被災した子どもたちへの	被災した子どもたちへの支援を行う。
4	お題4: 台風上陸直前	避難が容易な場所を確保し、避難が困難な場合は、二次避難場所を確保し避難の促進を図る。
5	お題5: 災害ボランティアセンターでの物資配布の継続判断	継続して物資配布を行う。
6	お題6: 被災した子どもたちへの	被災した子どもたちへの支援を行う。
7	お題7: 台風上陸直前	避難が容易な場所を確保し、避難が困難な場合は、二次避難場所を確保し避難の促進を図る。
8	お題8: 災害ボランティアセンターでの物資配布の継続判断	継続して物資配布を行う。
9	お題9: 被災した子どもたちへの	被災した子どもたちへの支援を行う。
合計	合計	合計

グループで出したC案の一覧

●各ルームの内容の共有、感想の共有

- ・クロスロードの全グループの結果(A案・B案それぞれの人数)を共有しました。
- ・グループ内でA案・B案で差が出た設問も全体を見ると拮抗しているなど興味深い状況が見られました。また、プラスワン(C案作り)で出てきた様々なアイデアも共有しました。
- ・参加者にクロスロード／プラスワンを実施して頂いた感想を頂きました。

●クロスロード／プラスワンのポイントの解説

- ・お題を作成したワーキングメンバーが登壇し、都立大学市古先生の進行のもと、お題作成の経緯とC案の可能性を話しました。設問を自分の所属やテーマに引き付けて作成してみることが非常に大きな効果を持つことについて助言がありました。また、災害研究の視点から、①情報収集、②規律性と機敏性、③内在性と外部資源、という3つから今回のクロスロードのお題を振り返りました。

クロスロードのお題

- ①台風上陸直前 一人暮らし高齢者への避難の促し
- ②隣のお宅への泥のかき出し対応
- ③災害ボランティアセンターでの物資配布の継続判断
- ④コロナ禍での寄り合いサロンの開催方法
- ⑤被災した子どもたちへの蔵書支援



クロスロード／プラスワンのポイント解説

ワークショップ開催のためのポイント

参加者と課題共有・意見交換～実際にやってみよう～でもどうしたらいいの？～

- ADRA Japan 小出さんと江東ボランティア・センター成海さんに再登壇いただき、実施した際の経緯や取組み時に苦労した点や工夫した点について伺いました。小出さんからは「教会単体で考えるのではなく、面的にネットワークで参加者が考えられるようにすることで新しい視点や可能性を感じてもらうようにした」、成海さんからは「災害の専門知識や経験は不要で、むしろ平時に凝っていることを災害時に置き換えられるよう心がけた」との発言がありました。
- そのうえで、参加者がワークショップを開催する際に課題になる点について、ワーキングメンバーの田村さんが5W1Hをベースに意見を聞き、ホワイトボードにまとめていきました。参加者からは、
 - ・防災に興味はあり、ワークショップはとても参考になったが、自分自身、転勤が多いので地域の人とどうつながって、どう参加者を集めたらよいのかが分からない。
 - ・このセミナーで学んだことを社員一人ひとりに伝えて、社内で実施したい。といった声が聞かれました。地域とのつながりについては、社会福祉協議会や生活協同組合、国際交流協会など地域とつながりのある組織があるので、まずはそこにつながってみてはどうかという提案がありました。



振り返り・閉会

- 最後に3名のコメンテーターよりコメントをいただきました。

糸山公照さん（防災士・僧侶 真宗大谷派光照寺副住職 九州臨床宗教師会）

糸山さんからは、平常時から地域とつながることの大事さの話を頂きました。「被災者は『困っている』と言えない。だからこそ、地域のキーパーソンとつながることがとても大事」。そのうえで、お寺の防災意識もまだまだ低いので「皆さんとも一緒に訓練をして、つながりをひろげ、つながり続けていきたい」とのメッセージがありました。



岡野照美さん（倉敷市真備岡田地区まちづくり推進協議会）

岡野さんからは、避難所の中で「よその人が来たから自分の地域の人が入れなかった」、「あなたは被災しなくて良かったわよね」など悲しい言葉も聞いたことから「災害時にも助け合える仲間づくりがやっぱり重要。平時からの地域づくりを」との言葉を伝えてくださいました。また、情報は待っていても来ないので、自分で取りに行くことが重要との話がありました。



菅野道生さん（岩手県立大学）

菅野さんからは「連携・協働は大事だがコストがかかるため、平時から関係構築のコストの貯金をしておくことが大事」として、それがまさに今回の連携ワークショップだったとの評価を頂きました。また、話題に挙がっていた地域とのつながりについては「今日、つながった方から紹介してもらっては」との提案がありました。「know-how」ではなく「know-who」を意識して、つながりを作っていくって頂きたいとの助言を頂きました。



●閉会挨拶

東京都災害ボランティアセンターアクションプラン推進会議 幹事団体
災害ボランティア活動支援プロジェクト会議 中央共同募金会 阿部陽一郎



スピンオフ・プログラム

連携ワークショップの解説・振り返り

- 連携ワークショップの振り返りでは、ワーキングメンバーの田村さんの進行のもと、1/29 の地域プログラム、2/27 の地図ワーク、クロスロード／プラスワン、そして、開催のためのポイントについて、企画したワーキングメンバーの担当者に質問をしながら当日の内容を振り返っていきました。
- 取り組む際の重要な視点として、当事者への声かけ、地域のことを知っている人への声かけ、災害時のまちを知っている人の声かけなど、今回のワークショップだけでなく、防災・減災の取組みを進めていく上でのポイントが出てきました。



勉強会

- 葛飾区亀有の地域で、災害時を意識して、様々なつながりを作りながら子ども居場所づくりに取り組んでいる「地域支援団体えまいま」の代表 佐藤純さんにお話を頂きました。
聞き手：ワーキングメンバー津賀高幸（ダイナックス都市環境研究所）
コメント：ワーキングメンバー前田恵美（国立市社会福祉協議会）



司会 安村

東京都生活協同組合連合会

佐藤純さん（地域支援団体えまいま）

災害時に子どもが集まれる場が安心できる場につながる、という視点から、多くの関係者と一緒に子どもの居場所を運営している事例をお話いただきました。普段の地域の町会会館を使っての取組み、そして、その平時の取組みが実際に令和元年台風 19 号の時に生き、避難所運営ができたというお話もありました。以下、当日のやりとりの一部をご紹介します。

【津賀】今年の連携ワークショップの感想は？

【佐藤】地域で気づいたことをみんなで地図と一緒に落とすのは、取り組みやすいと感じました。クロスロード／プラスワンは現実味のあるお題だった。意見が割れることをどう一緒に話し合っていくかが災害時も平時も大事ですね。

【津賀】様々なつながりをどう作っていったの？

【佐藤】葛飾会議でつながった仲間から。仲間と話をしながら、徐々に具体的にになっていくと「あの人に聞いてみよう」というところから、つながりが広がっていきました。諦めずに相談して、続けていくこと。あとは、地域のイベントに必ず出かけていき、つながりを作ることですかね。

【前田】本当に素晴らしいと感じた。

えまいまさんの取組みに伺いたいです。地域と地域をつなげる取組みの実践、国立市でもいろんな人の顔を思い浮かべながら聞いていました。佐藤さんの話を聞いて、社会福祉協議会の職員として地域の方と一緒に取り組んでいきたいと気持ちを新たにしました。



交流会

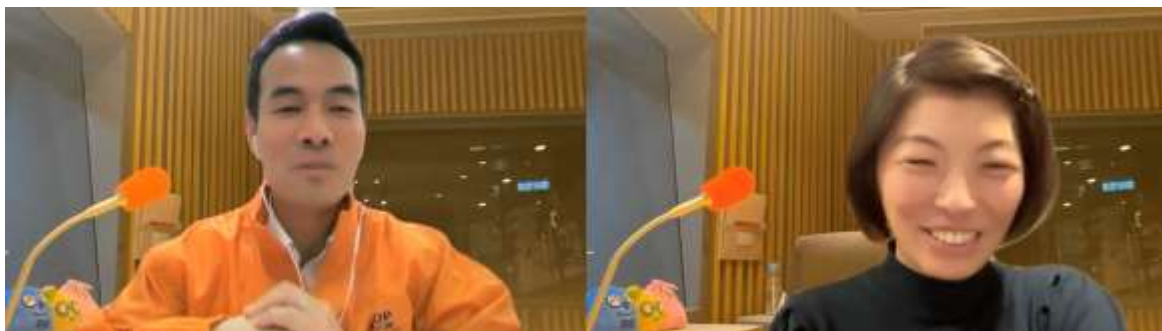
●メインルームは引き続き、「純さん」こと、えまいまの佐藤さん&パーソナリティは「トニー栗田」こと東京都生活協同組合連合会の栗田さんのお二人でのトーク、そして、以下3つのブレイクアウトルームを設定し、情報交換並びに交流を行いました。

◇メインルーム（佐藤さん、栗田さん）

病院勤務で、若くても亡くなる方を見て、後悔しないことが大事というところから、人とのつながりや出会いの世界に飛び込んでいったこと、えまいまのチラシを学校に配布して広めたこと、お寺などの宗教施設とのつながりで寄付の受入れ、「人生常にトリアージ」の話など、楽しみながら取り組んでいるという話で盛り上がりました。

質問交流会

- ◆メインルーム
「えまいま」の佐藤さんにもう少し話を聞いてみよう!
パーソナリティ 東京都生協連・栗田
- ◆ブレイクアウトルーム
①平時の取り組みについての質問や意見交換ができる
東京ボランティア市民活動センター・加納
災害復興まちづくり支援機構・田村
- ②災害時における被災地での活動について
ピースポート災害支援センター・大塩 現場の話
シャンティ国際ボランティア会・中井 聴けます!
- ③なんでも質問・疑問にお答え
東京災害ボランティアネットワーク・福田
連合東京・真島



トニー栗田（東京都生活協同組合連合会）

純さん（えまいま）

◇平時の取り組みについて

「コロナ禍の中で実地の訓練が出来なくて困っている」という話に対して、災害だけで集まるのではなく、普段の集まりに災害の視点を入れていくこと、また、感染が減ってきたタイミングを見計らって実施すること、都内はマイタイムラインが子どもに配られているので、それを家族で実施するところから、など様々なアイデアが飛び交いました。

◇災害時における被災地での活動について

避難所運営の取り組みについて質問があり、障害のある方、子どもなど配慮が必要な方が安全に避難できる環境をと整えることが大事というアドバイスがありました。一方、アレルギーのある方など、被災者の中で声をあげづらい方もいることにも話が及びました。

◇なんでも質問・疑問にお答え

地域での仲間づくりに関して意見交換が行われました。楽しんで活動している人は魅力的に映ること、また、連携するときには相手の想いに折り合いをつけていくことが大事という話が出ました。

閉会後の自由時間

●閉会後も、交流を目的として15分間、上のブレイクアウトルームと同じZoomを開けておいたところ、多くの方が残って下さり、思い思いに情報交換をされていました。

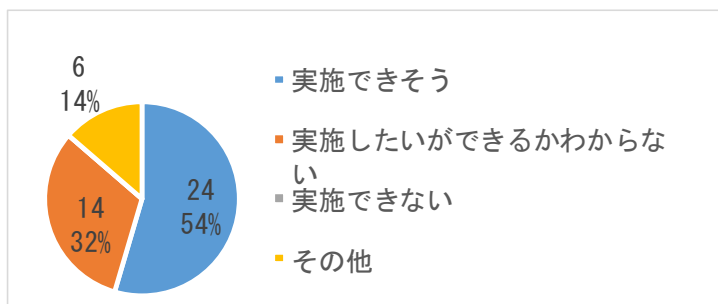
2/27 都域プログラムと 3/2 スピンオフ・プログラムの参加者の声

都域プログラム

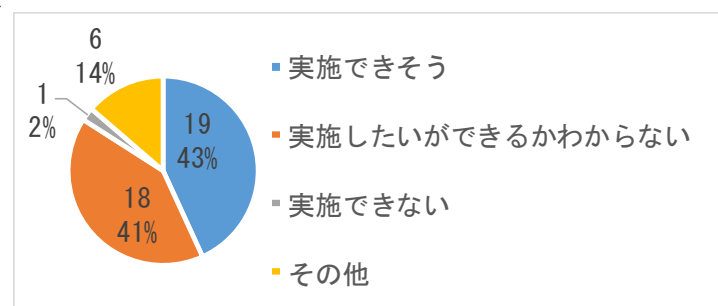
● プレイヤー参加者

- ・ 新たな気付きが多く大変良かった。地図ワークについては、現在の IT を使ったわかりやすい地域の街歩きが、仮に雨になっても図上でもできると思った。クロスロードは、いろんな立場の方と実施するといろんな意見考え方が出ることがわかり、ぜひ地域でもゲーム感覚で気づきを体験し活かせればと思います。
- ・ 企業で災害ボランティアワークショップが出来そうだと思います。今回の具体的なワークショップに加えて、災害が起こった際の心構え的な簡単なハンドブックみたいなものもあればそれも活用して充実した内容で行いたいと思いました。
- ・ 日常のコミュニティが災害時のセーフティーネット機能構築のために現在港区で活動しています。同じ思いの人たちがこんなにいたんだと知り、安心しました。
- ・ 防災をテーマとした参加型のプログラムを探していたので、大変勉強になりました。またワーキンググループなど、たくさんの方が関わって運営している点がすごいと思いました。

地域や団体でクロスロードが実施できそうか？



地域や団体で地図ワークが実施できそうか？



スピンオフ・プログラム

- ・ 佐藤純さんのお話はとても参考になりました。特に「防災を意識しない関係でいざという時に頼りにされることを目指している」という言葉に感動しました。
- ・ 当事者参加、平時の取り組み、地域の多様な連携など日頃から実感し、取り組み始めていたことを地道に続けていけばいいと思えたから。
- ・ いろいろな方と交流ができてよかったです。特に同じ団体の会員同士よりいろんなところで活躍されている方との話は気付きが多く、今後の活動につながるが多かったです。

◆ Special Thanks (連携ワークショップ実施にあたり、ご協力いただいた皆さま)

末廣香澄さん、小野満与さん、亀川悠太郎さん、浅野芳明さん、渡邊珠人さん

◆ 企画・運営 ワーキング・グループメンバー

ピースポート災害支援センター (大塩さやか) / シャンティ国際ボランティア会 (中井康博) / AAR Japan [難民を助ける会] (櫻井佑樹) / 東京災害ボランティアネットワーク (福田信章) / 東京都生活協同組合連合会 (栗田克紀、安村知宏) / 江東ボランティア・センター (成海隆博) / 国立市社会福祉協議会 (前田恵美) / 連合東京 (真島明美) / 東京都立大学 (市古太郎) / ADRA Japan (小出一博) / 災害復興まちづくり支援機構 (田村裕美、土井小咲) / 真如苑 SeRV (中村浩之、白石幸男)

<サポーター> ダイナックス都市環境研究所 (津賀高幸)

主催：東京都災害ボランティアセンターアクションプラン推進会議

【問合せ】東京都災害ボランティアセンター アクションプラン推進会議 (事務局：東京ボランティア・市民活動センター 加納・品田・神辺)
電話 03-3235-1171 E-mail saigai@tvac.or.jp ※本プログラムは、東京都共同募金会の助成金により実施しました。